令和４年度

港区立青南幼稚園　経営計画

園長　新山　裕之

園のビジョン、私たちの使命

青南を みんなの 心のふるさとに　－心の根っこを育てよう－

幹や枝葉が立派な木は、地面の下に根っこがしっかり育っています。青南幼稚園には、シンボルツリーである楓や桜をはじめ、多様な木々が幹太くたくましく枝葉を伸ばしています。その木々はまさに、将来の日本を背負って立つ子どもたちになぞらえられます。私たちは、子どもたちが個性豊かな立派な木々として育つために、その根っこを丁寧に育てます。

身近な人や自然との関わりから生まれる遊びや生活を通して、子どもたち一人一人に、人への信頼感を基盤とした主体的に生きる構えを育てます。今ある環境を生かしたり、改善したりして多様な動きを引き出す環境や指導を具体的に工夫して、遊びや生活を通して多様な経験ができるようにします。

今年度は、年少、年中が１学級ずつ、年長が２学級という学級編成になり、園児数、職員数ともに減少しました。新型コロナウイルス感染症対策も続けながらの園運営となります。同時に、港区の研究奨励園として、青南幼稚園ならではの豊かな自然環境を生かした豊かな実践をし、その過程や知見を多くの方々に向けて発信し、共有することも目指していきます。自然って面白い、子どもって面白い、保育って面白いという思いが青南幼稚園に関わる多くの大人の心に根付いていくことを願っています。

私たちは、公立幼稚園として地域の幼児教育の質を高め、子育て世代の保護者を支え、地域の子どもたちの健やかな育ちを保障する使命をもっています。全ての教職員が目の前の子どもから学ぶ謙虚さや感謝の気持ちをもち、個性を生かしながら指導力を高めて力を発揮することが求められます。しかし、保育はチームで創り上げていくものですから、互いの仕事のすき間の部分を思いやりの気持ちをもって埋め合うことが重要です。チームとしての連携と協力がスムースに進められるためのシステムづくりも知恵を出し合って工夫していきます。教職員がやりがいをもって保育に取り組むために、教育委員会やＰＴＡとも連携・協力しながら、働き方改革を進めていきます。

幼稚園に関わる全ての人たちの力を集め、子どもたちはもちろん、教職員、保護者にとっても心に深く刻まれ、その後の人生を支える「心のふるさと」となるような日々を共に創り出していきましょう。

1　目指す幼稚園像

（1）　子どもとの応答的な関係を大切にし、
共に創り出す遊びや生活を通して、子どもが伸びる幼稚園

（2）　遊びや生活の充実のために、
環境のもつ教育的価値を踏まえて、東京で一番手入れの行き届いた幼稚園

（3）　南青山という地域性や施設環境、職員組織、学級編成などの特徴を生かし、
地域や園の強みに注目した遊びや生活を展開し、みんなが誇りと思える幼稚園

（4）　異学年・地域・青山アカデミーの関わりを大切にし、
様々な人との多様な関わりを通して、育ち合うことができる幼稚園

（5）　子育てを楽しみ、子どもにとっての憧れとなるために、
大人自身が自ら考え、いきいきと行動し、笑顔が響き合う幼稚園

教育目標

よく考えて遊ぶ子　…　自発性と試行錯誤を大事にした「豊かな遊び」
　幼児期にふさわしい遊びが展開できる環境を整え、そこに幼児が関わり生まれる遊びを共感的に受け止め、豊かな学びにつなげ、主体性を育む。

思いやりのある子　…　豊かな人間性につながる「人との関わり」
　豊かな人間性につながる社会生活における望ましい習慣や態度、他者への思いやり、協同の精神や人権尊重の精神を育む。

心も体も元気な子　…　心身ともに健やかに「しなやかな心とたくましい体」
　健康や体力につながる基本的な生活習慣や進んで運動しようとする態度を養うとともにどんな状況も前向きに捉え、日々の遊びや生活を楽しむ構えを育む。

2　中期的目標と方策

（1）　子どもも大人も、安心して最高のパフォーマンスが発揮できる環境づくり　（環境による教育）

①　３年保育が始まって１１年目。３階までの園舎になって７年目、子育てサポート保育が始まって６年目を迎える。この５年間に日々の環境整備はもちろん、教育委員会とも連携し、園内外の改修工事を数多く実施し、安全で快適な環境づくりをしてきた。恵まれた環境を生かして、保育実践を更に充実させるとともに、安全・安心な遊びや生活のための動線の確保を進める。「がくぷり」はＰＴＡが契約を継続してくれ、新しい園務支援システム「コドモン」と合わせて、日々の連絡や園務などの効率を高め、教職員の働き方改革を進め、最高のパフォーマンスを発揮できる基盤をつくり上げる。

②　子どもが自ら環境に働き掛け、主体的に遊びや生活を創り出していくことができるよう、きれいで使いやすく片付けやすい保育環境（保育室、教材室・倉庫、職員室、ＩＣＴ環境も含め）と豊かな自然環境を生かし、今ある環境に手を加えて、魅力を発揮させていく。

③　保護者が肩の力を抜いて、子育てや幼稚園生活を楽しみ、自己実現をしながら子どもの育ちを喜び合う仲間となるために、双方向の情報発信や連携を工夫する。

（2）　確かな保育理念と主体性を育てる理論と実践力を備えた教師集団づくり　（教育は人なり）

①　担任だけでなく、多くの教職員が保育に関わる環境の中で、全ての教職員が、子どもと教師との応答的なやり取りを大切にする構えと子どもの背にそっと手を添える援助とその理念を身に付ける。それぞれの役割を確実に果たすことで、子どもたちと共に遊びや生活を創り出していく実践を推進する。

②　日々の子どもとのやり取りや職務の遂行を通して、人として教師としての基本を学び、保育という営みの魅力とやりがいを実感し、感性を磨き、謙虚に学び続ける教員としての基本姿勢を確立する。

③　乳幼児期から青年期までの発達を学び、長いものさしで幼稚園教育を考える視点をもつ。

（3）　青南幼稚園ならではの質の高い教育の創造　（地域の幼稚園）

①　南青山という独特な地理的・文化的な地域性、緑豊かな園庭など恵まれた自然環境などを生かした豊かな遊びや生活が展開できるよう創意工夫し、青南ならではの魅力を生かした教材開発をし、教育内容の更なる充実を図る。

②　季節の行事や自然との関わりを大切にする伝統を大切にする。

③　日常的な異学年交流や生き物との関わりなどを通して、思いやり、感謝や憧れの気持ちを育てる。また、保護者や地域の方々との交流、保育園、小中学生など様々な人や物との関わりも、感染対策をしながら内容や方法を工夫して、できる限り実施し、心に残る体験が積み重ねられるようにする。

3　今年度の取り組み目標と方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（１）　環境に関わる取り組み　（環境による教育）

①　環境についての基本姿勢の確立と新型コロナウイルス感染症への対応

保育室、園全体の醸し出す雰囲気、教師の服装や言動全てが、環境として幼児の育ちに大きな影響を及ぼすことを肝に銘じる。幼児と共に遊びや生活を創り出すためには、幼児と共に環境を整えることを徹底し、降園時には朝の状態に戻すことを基本とし、手入れの行き届いた環境を維持する。幼稚園教育の基本である環境による教育の重要性について、実践を通して体で理解し、指導の基本として確実に身に付ける。青南幼稚園の自然環境を生かした保育が、ＳＤＧｓにつながる保育であることを意識しながら実践していく。

新型コロナウイルス感染症対策については、区のガイドラインに則り、安全・安心を第一に対応していく。対策に意味を理解した上で、新しい生活様式として大人も子どももなすべきことは確実に実施し、その上で身の丈に合った、子どものペースを大事にした保育実践に務める。

○降園時に朝の状態に戻すこと、整理整頓の確実な実行

・保育室の環境整備は保育の第一歩という意識と日々の実践

○環境に意図を込める習慣付け

②　新しい状況に対応した指導の工夫

４学級編成になったこと、異学年交流のバランス、空き保育室の活用や園庭の使い方、園庭でのそれぞれの遊びの充実と異学年の関わりについては、今年度の新たな課題である。教職員数の減少も含めて、安全・安心に関しては改めて意識改革と工夫が必要になっている。豊かな学びが展開できる環境と指導の工夫を積極的に実践し、反省評価を確実に行い、指導計画に加筆修正していく。

○園庭環境や園内の使い方について具体的な実践の工夫と指導計画の加筆修正

・園庭の遊具の開発や幼児の実態に応じた加除修正

・動的遊びと静的遊びの住み分けと全教職員による共有

③　物的環境、文書管理の管理と進行管理の効率化

保育指導に関するパフォーマンスを上げるために、日常的に倉庫や収納スペースの管理を丁寧に行う。提出書類の締切や途中経過などを担当者以外も確認できるよう、進行管理の見える化と情報共有をＰＣ内と紙資料を併用して工夫する。コロナ禍での危機管理も含めて、「がくぷり」や「コドモン」など職員間のコミュニケーションツールの活用で、情報共有の徹底を図り、働き方改革と効果的な園務の執行を図る。

○園務分掌ごとの改善計画の提案と実施

・「がくぷり」と「コドモン」の活用によるペーパーレス化と文書管理・事務処理の効率化

・進行管理の見える化による危機管理も含めての情報共有

④　自然物の活用、栽培活動の計画的な実施

遊びの充実や情操面の育ちを目指し、季節の変化を身近に感じることができる自然環境に恵まれていることを生かし、全教職員が協力しながら、園庭の遊具や草花などを手入れし、豊かな環境と清潔さや安全性を保っていく。

○自然と関わる活動の工夫（キャリアに応じた実践）と指導計画への加筆

・自然に対する意識と行動改革（園だより、園長コラムを受けての行動改革）

・定期的な教員による共同作業を通しての身近な自然への働き掛けに関わる実地研修

（2）　教師の指導力向上に関する取り組み　（教育は人なり）

① 教師としての基本的な構えの習得

子どもは、教職員の何気ない言葉や立ち居振る舞いの全てを吸収していく。「大事なことは小さなことの中に宿っている」ことを肝に銘じ、教師も子どもも日々の生活の中で繰り返す活動の中で、「小さなことに心を留める」ことを教師としての基本的な構えとして身に付ける。

○「小さなことにも心を留める」ことの意味の自覚

・笑顔で相手を見て挨拶する、ゴミが落ちていたら拾う、靴の脱ぎ履きなど大人がモデルとなる

・公的な施設を一年間借りているという意識の徹底、物品や施設を大切に扱う構えを身に付ける

② 幼児理解の力量の向上と寄り添う心もちの醸成に加え同僚性の強化

遊びや幼児の心情の理解が保育の原点であることを再認識し、それを的確に捉え、表現する力量を高める。それと同時に、まず幼児の隣に寄り添う心もちが前提であることも、日本の幼児教育の父である倉橋惣三の言葉を定期的に紹介しながら、園の基本的な姿勢として定着させていく。そのことは園のビジョンと経営計画を理解し、自己申告やキャリアプランを活用し、１年間の具体的な目標と方策をもち、経験年数に応じて記録の取り方などを工夫し、確実な幼児理解に基づく保育実践を目指す。園児数の減少による状況の変化を前向きに捉え、教職員の同僚性を高めつつ、日常の連携を深める工夫をしていく。

○相手の思いを受け止めるゆとり

○記録の取り方、書き方の工夫

③ 支え合いと学び合いによる指導力の向上

保育はチームプレイである。幼児理解は、多面的な理解をするために様々な立場の職員とも意見交換をし、指導計画については腹案の段階で、職員室などで話題にして調整していくことを習慣付ける。子どもの背にそっと手を添える援助と集団を動かす際の指導法の基礎を身に付け、子どもと教師との応答的なやり取りを大切にする学級経営を進めていく。

○得意分野の伸展を目指す積極的な教材研究とその成果の発表

・教材や作品については必ず３つは試作して提案する

○「幼児教育じほう」を使っての研修

・全員が自費購入し、論説や実践事例、じほうセミナー（倉橋惣三）などから自己研鑽

④ 保育実践につながる園内研の充実

園内研では、「自然って面白い！－小さな発見から豊かな経験につなぐ保育を目指して－」をテーマに研究を推進する。１０月２７日の研究発表会を意識しながらも、日々の自然との関わりを通した実践については、昨年度までの実践の意味を再確認しながら追試したり、さらなる教材開発をしたりする意識をもち続ける。現在の環境や実態に合った活動や指導を工夫できるようにする。

○研究発表会も意識しながらの保育の充実と発信の工夫

○職場環境の変化に応じた業務の工夫

⑤ 足育推進者としての意識の定着

今年度も引き続き、学体連の足育調査協力園として、貸与された靴を丁寧に脱ぎ履きする習慣を身に付け、足元からの健康について再確認し、よりよい実践に結び付ける。

（３）　青南幼稚園ならではの教育の充実　（地域の幼稚園）

①　青南ならではの環境を生かした保育の展開

ここ数年で伝統となりつつある青南幼稚園の自然を生かした遊びや生活に関する意識をさらに高め、自らの学級経営の柱の一つとして活用していくようにする。手入れや過程を子どもたちと共に取り組む中で生まれる気付きや発見が遊びや活動を豊かにしていくことを教師自身が楽しめるようにしていく。青南幼稚園の自然環境の魅力と子どもたちの育ちを積極的に発信していく。

〇自然環境を生かした保育の充実

・去年までの保育実践とのつながりと改善

・ホームページやドキュメンテーションによる発信

②　体を動かす活動の充実

４学級になったことを生かして園庭を積極的に活用すると同時に、青南小学校第２校庭での活動も計画的に実施していく。日々の遊びや生活の中で鬼ごっこや競い合う遊びなど、多様に体を動かす機会が増えるよう実践を工夫していく。

〇体を動かす活動の積極的な実践

③　様々な人との交流

５月の保幼小合同研修会などをきっかけに、昨年度の保幼小研修会の成果物を生かして情報共有していく。対面での交流は難しいが、計画的に動画の撮影や視聴、手紙のやり取りなどを工夫して、早めに小中学校や保育園との関係づくりを進め、実践していく。それぞれの立場で、関連施設や地域の方々などと電話やメールなどで連絡をとる中で、個人的なつながりを構築する。

〇コロナ禍でもできる保育園、小中学校との交流や連携の工夫

④　ＰＴＡ活動、保護者との連携の工夫

年度初めに新役員と協力してＰＴＡの組織や活動についての基本的なことを図式した資料やガイドラインなどを作成し、全保護者と共通理解できるようにする。心の子育て講座では、元都幼Ｐ副会長の講演会も企画し、子育てやＰＴＡ活動についてアドバイスを得られるようにする。保護者同士の情報交換の方法を工夫し、子育ての悩みなどを話せる仲間づくりを支援する。ひよこ組やＰＴＡ活動などを通して、地域の子育て仲間としての関係づくりを図る。

〇ＰＴＡ相関図の改訂とガイドラインの提示、「がくぷり」やｚｏｏｍなどの活用

〇コロナ禍でもできるＰＴＡ活動の推進

〇子育てサポート保育の拡充

⑤　質の高い実践とその発信

全体保護者会や学級懇談会、行事等で直接話し合う機会を大事にする。それらを補うものとして、ホームページや学年だよりなどを通して子どもの育ちや子育てのヒントなどについて、幼稚園での取り組みと重ねて分かりやすく発信する。保護者へはもちろん、幼児教育の本質を守る公立幼稚園としての意識をもって、地域の幼児教育のセンターとして質の高い教育実践を目指すと同時に、そのことを地域や広く社会に向けて発信し、園児数の増加にも努力していく。

〇掲示板や「がくぷり」を活用した子どもの育ちや幼児教育への理解推進

〇ホームページやツイッターを活用した青南幼稚園の魅力の発信

〇ひよこ組や地域施設（放課ＧＯ、中高生プラザなど）への情報提供の強化